

大腸ビデオスコープ 1 式

仕 様 書

令和 8 年 9 月

国家公務員共済組合連合会

新 別 府 病 院

【調達の背景】

内視鏡室に於ける汎用ビデオスコープの歴史を語るには、今からざっと 40 年程前の歴史を紐解く必要がある。

昭和 60（1985）年に大分医科大学（現在の大分大学医学部）より古庄精一医師が、翌 61（1986）年には平野雅弘医師が赴任され、内視鏡室の黎明期を支えられたことに始まるが、当時の上部ビデオスコープはオリンパス（現在のオリンパスマーケティング株式会社）製、下部ビデオスコープはペンタックス（現在のリコーイメージング株式会社）製と相場は決まっており、当時は藤澤医科器械株式会社（現在の山下医科器械株式会社）が販売代理店であった。

平成 18（2006）年には手術室分野に於いて、それまでのカールストルツ（現在のストルツメディカル・ジャパン株式会社）製腹腔鏡から、オリンパス製へと仕様を変更し、俗に言う「VPP 契約」がスタート。

手術室分野の安定稼働を受けて、後を追うように内視鏡室の「VPP 契約」が運用開始となり、年間 9,000 症例の内視鏡件数に支えられて、VPP 契約に伴う機器更新も極めてスムーズに行われる安定期が続いた。

ところが、令和 2（2020）年に未曾有のコロナ禍となった頃より、外来患者数が激減し、同 5（2023）年にコロナ感染症が 5 類感染症となって以降も患者数が元に戻らなくなってしまう事態となった。

VPP 契約は一症例当りの単価契約のため、この段階で、見直しをしなければならなかったのだが、これを怠ったため、固定費用となる賃借料の増加が顕著となり、経営逼迫を助長する一因となっていたばかりか、本来であれば適切な提案をその都度行うべき第一代理店の業務実態、或いは、墮落と付度に満ち満ちたメーカーの動きなど諸問題が山積する有様となっていたのが令和 7（2025）年 4 月時点での状態であった。

あれから 1 年半近くを経た今、第一代理店は過去の反省に立ち返り、初心に帰って現場とのコミュニケーションを図り、またメーカーも毅然たる態度を取り戻しつつある状況となったことの意味は大きく、今後は内視鏡件数の増加を目指して、10 年以上機器購入のなかった内視鏡ファイバー類の整備に邁進する必要がある。

既に令和 8（2026）年 4 月に GIF-1200N 1 本、8 月に TJF-Q290V 1 本並びに CV-1500 1 台を購入しており、今回は内視鏡室で購入して導入後 20 年を迎える PCF-Q260AL が修理不能となったことに伴う機器更新として入札を挙行したい考えである。

本件は令和 8 年度事業計画に予算計上はしていなかったものの、今後は内視鏡室の機器更新にかかる予算をしっかりと計上確保の上、数年かけてしっかりと整備し、賃借契約が経営の邪魔をしないようにする必要があると考えるが、入札に参加を予定する業者は上述する経緯を十分に理解の上、参加されたい。

1. 必要条件

入札時点で薬事法に定められている製造の承認を得ている医療機器であること。

2. 調達物品名 : 大腸ビデオスコープ

3. 数 量 : 一式

4. 使用目的

消化管内視鏡検査は、消化管をはじめとした多くの疾患の診断や治療方針決定に有用な検査である。

当院においても、消化管内視鏡システムを有し、検査や経内視鏡治療（ESD・ポリペクトミー・EMR など）を行っているが、経年劣化且つ修理不能な旧型の内視鏡システムを保有しており、診断と治療に支障を来す状況下にある。

また、正確な診断・治療を行う上で必要な下部内視鏡が不足している状況下にあることから最新の下部内視鏡スコープを導入し、診断・治療効率の向上を行える下部消化管スコープを新たに調達するものである。

5. 構成内訳

1. PCF-H290L

※搬入・据付・調整・使用可能な状態での引き渡しを受けるための役務の行為を含むものとする

（性能・機能に関する要件）

1. 大腸ビデオスコープ PCF-H290L は、以下の要件を満たすこと。

- 1-1 操作部には4つのスコープスイッチを有し、フリーズ、リリース、周辺装置のリモート操作が可能であること。
- 1-2 ワンタッチコネクターを有し、検査セットアップと検査後のスコープ取り扱いが容易であること。
- 1-3 下部消化管汎用ビデオスコープは3.2mmの鉗子チャンネルを有していること。
- 1-4 下部消化管汎用ビデオスコープは挿入部の硬さを調節可能な硬度可変機能、高伝達挿入部、受動湾曲、副送水機能を有すること。
- 1-5 電子内視鏡システムとの組み合わせにより、光デジタル法による狭帯域光観察(NBI)が可能であること。
- 1-6 高周波を利用した内視鏡的処置を行うための高周波漏洩電流対策を有すること。
- 1-7 下部消化管汎用ビデオスコープは視野角 170° を有していること。
- 1-8 下部消化管汎用ビデオスコープは先端外径 11.7mm、軟性部外径 11.5 mmを有すること。
- 1-9 下部消化管汎用ビデオスコープは湾曲角度 Up 180°、Down 180、Right 160°、Left 160° を有していること。

1-10 上部消化管汎用ビデオスコープは有効長 1,680mm を有すること。

以上